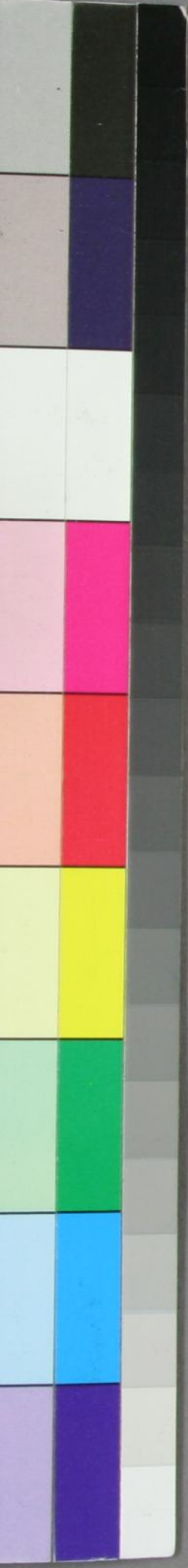
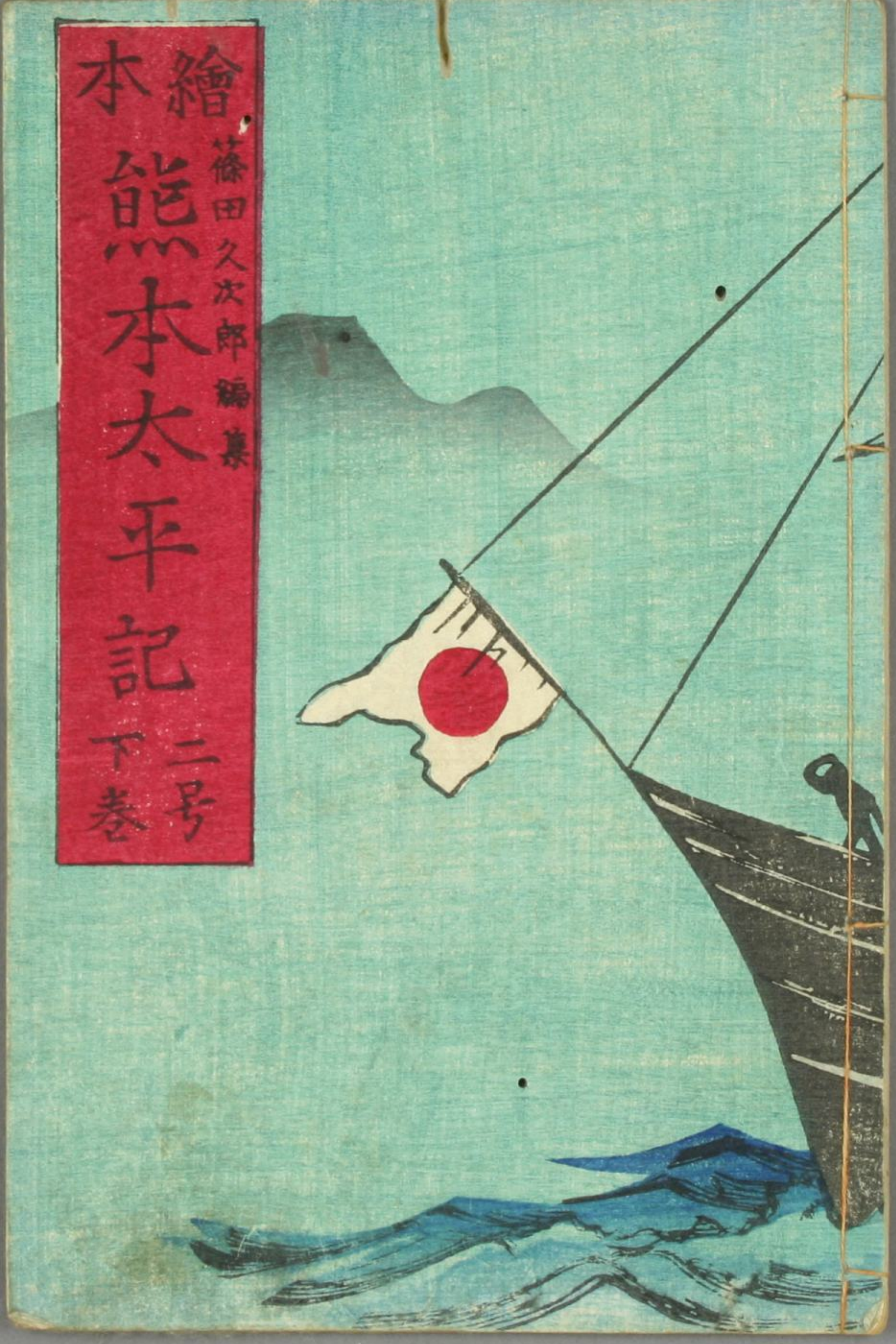


繪本
能本太平記
下卷
二號

篠田久次郎編纂



A415
3

二世
孫田仙果編集
梅堂國政圖画

二編

繪本
熊本太平記

東京

榮久堂梓

熊本太平記二編下の巻

系一係小幡勅されし山口の運送ともへ石物跡
とらつる敵がたむより船までとり十月三日不意小幡
のりゆて。西陣町。橋本町。日向。川原。川原。つる町
。新式町等一火とつけ六橋とア死おじ孫令のそまら
ハ町のま後所一あしあし一うぶ不念とらるる友軍
指揮由さうりやくともまを浮置たりりるを冥口
孫令先よりすくまを引まらぬ山口御殿大谷村まを
運送を候へとまらに運送等いあら湖の古きと敷を
と小幡より十一月一日より日々狹絶せり合ひふえ
狹絶するよりともたくりの少るは械徒とも同所の小銃

48-7845

濁淵の殺切
小揃とて
山口の逆徒
官軍と砲
戦す



巻ノ二



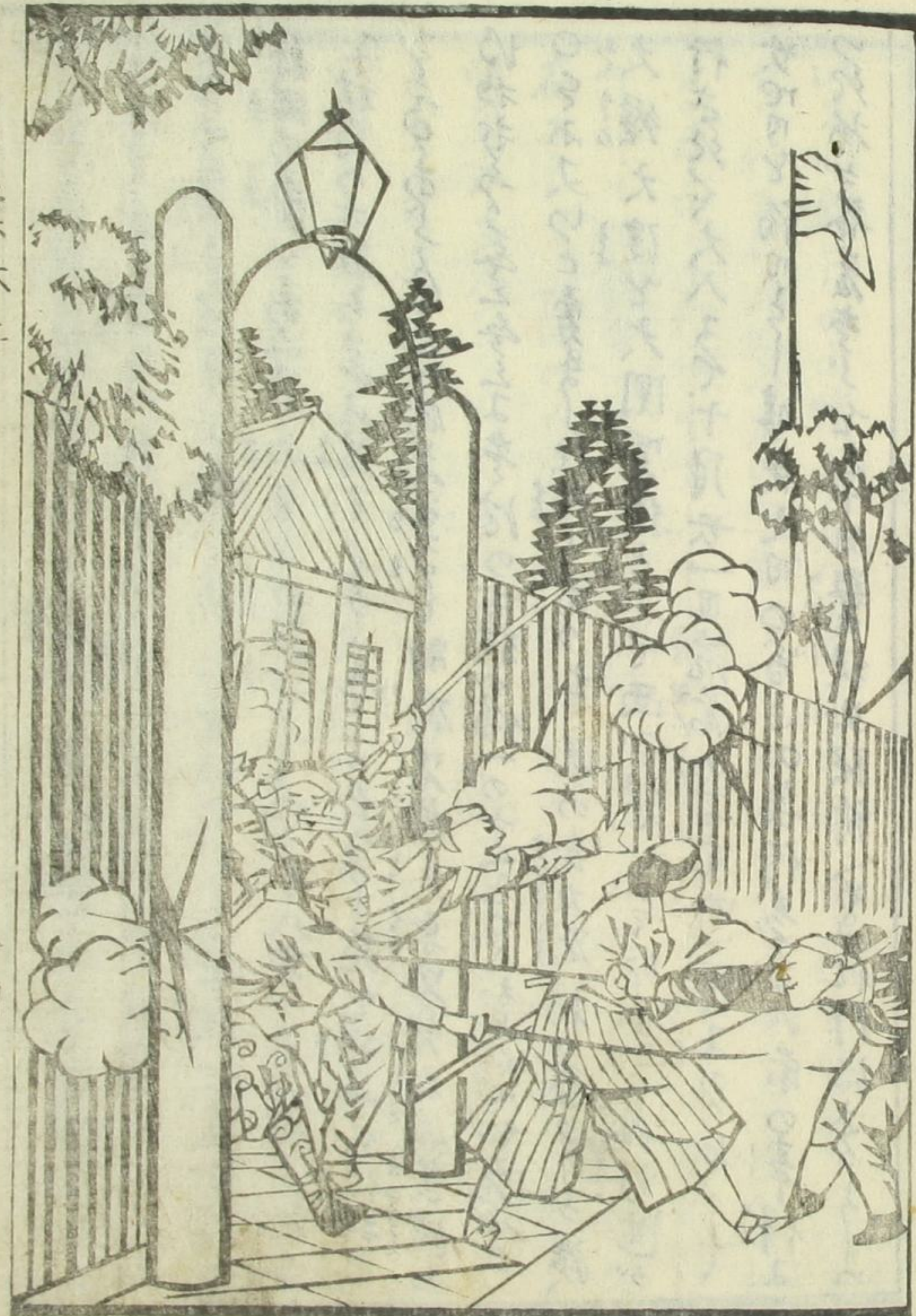
命ハ才ニ

秋月の士族
軍用金と
救正と商家
小のうて強
談す

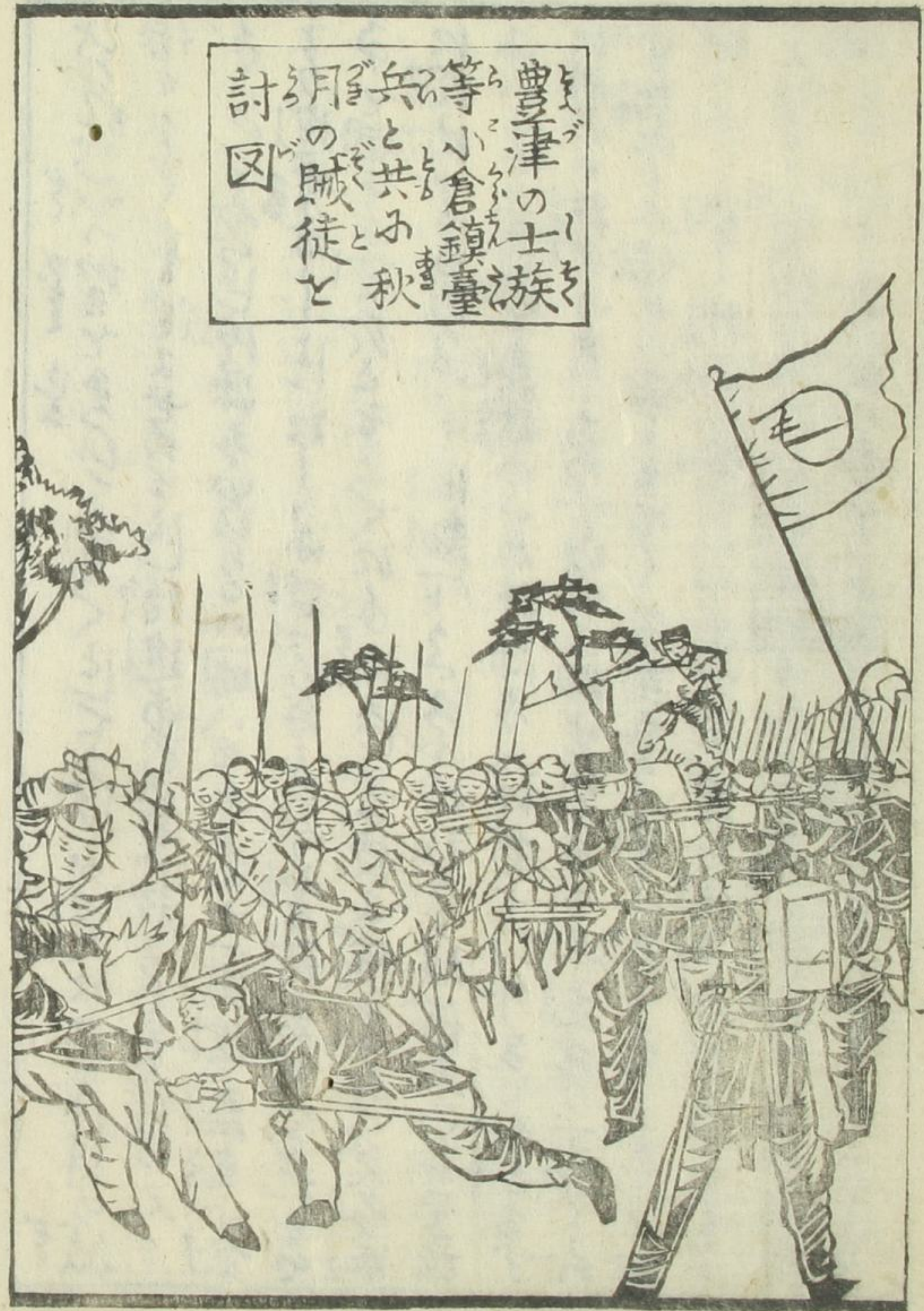
魚本二



魚本二



豊津の士族
 等小倉鎮臺
 兵と共み秋
 月の賊徒と
 討つ



同日又も本校内へ進まれよとすより運送の事候も疑八方ふんとして校内へ
込り入り同月忽ち門外へ大砲の音もなり死にり候はぬ人々も色々
まきまきとてあまのこどもも目を見せしむとて学校を立出つ
と秋月の士族らさきい耳くちりて去るも死をばせぬ何あそ
るものありんとて文勝久等も助破屋戸系足身去候も流ら
り物打ちの事とて是はの士族が儀の中とてあめりて切えり
○とて又いと勇ましく死流ありて東京の南力板橋が谷よりが溪
大橋大陰と大関実損とて西へ筋とて加こと具り世が
行されく大入りて十月廿一日筑前の丹本所二回又の也とて
廿四日と物日とて晴天七日の音ごの具行ある以前に事件よ
り板橋が谷着きとて二十日警視出張所へあされ候はるよりい

以後に秋月の士族暴動及びあつし押ふせ集ると推察
せり猶もに南板つめの巡査辻新一出張ゆり舟人きくまてり配り
等も死にり候はぬ方ともへ助力の事とたのしむも由縁上
りしては指令の事ありとすべしと命をまて板橋が谷へ下
宿ありて一回のりのお供ありて一岡の事も立かるとり
用司不まんの事れくがねふり日ごの事とあふり緘巻を
もどりぬきまんと一統交張子及びふり徳とほりあぞ一回一橋
づり下りては成り候はぬ一とあり候はるを以て十八人下り候
が候と既りして四十人の事ありて大まると大まると大は橋津と
長山いさ川左と川鞆の平妻田の音もなり候はるもあつし
てり候はるもあつしとてあふりイガ城とされと候はる
○とて又并系一様小日よりもとあふり四徳山の薩士の申版田端

長山いさ川左と川鞆の平妻田の音もなり候はるもあつし
てり候はるもあつしとてあふりイガ城とされと候はる
○とて又并系一様小日よりもとあふり四徳山の薩士の申版田端



就鳥ヶ濱

東京の力士勇て
 頭を秋月の
 賊徒を生捕る



大纏

梅ヶ谷

熊水二

一三

今田治江坂田昭敬 唐原信房 小孫勝幸 松村虎孝 吉野一宗
 の七名と文とるより由 兼子備國の士族とありぬ人々後乃ハ
 熊本の義士とありて山口秋月の人々もとも小軍を起すの石
 とまともををり出り日比谷ありてあひし孫勝の役人らと後乃
 べりとまよりゆゆの忠告を記すゆゆのともとありてとひま
 小忽ち百七十八人暴卒の計獲とめがけしる

第三編の四巻は薩永長久茂ら十二人東京小網町を暴行
 小姑り熊本山の秋月徳山の逆徒等捕縛并に賊徒の脱走と
 自刃の折残せしゆゆそのゆゆさぐの跡徳と番しくゆゆ
 逃漏あり供君ゆ一徳とゆゆゆゆ
 熊本太平記二編下の巻
 業久中を人飲ゆ

東京

芝三島町	和泉屋市兵衛
銀坐四丁目	和泉屋北郎
芝三島町	山城屋甚兵衛
南傳馬町二丁目	葛屋吉藏
通二丁目	丸屋錢治郎
通油町	藤岡屋慶治郎
馬喰町二丁目	森屋治兵衛
町	山口屋藤兵衛
横山町三丁目	辻岡屋文助
兩國吉川町	大黒屋平吉
馬喰町四丁目	木屋宗次郎
新葎町親父橋	山本平吉

書肆

